

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも...



Vol.50

## これもSDGs? 知らんけど



最近SDGsという言葉をよく目にしたり、耳にしたりもしますね。これについては難しい解説が多い中で、「将来の世代のための環境や資源を壊さずに、今の生活をより良い状態にするための目標」というのが一番分かりやすいのではないのでしょうか。そして、そのために私たちに何ができるのでしょうか？

これといって無理をしてやっているわけはありませんが、私の日常になっているSDGsをいくつか紹介します。

- ① 昼食は市内のお店を利用している
- ② その際食べ残しのないようにご飯を少なめに頼むことになっている
- ③ もし残したら恥ずかしがらずに持ち帰る
- ④ 地域の清掃活動や献血などボランティア活動に積極的に参加する
- ⑤ 漂着物などの海ゴミをアートを交えたり、それを子どもたちに教えたりする
- ⑥ 愛用のエコバックを持ち歩き、なるべくレジ袋はもらったり買ったりしない
- ⑦ 旅先には歯ブラシを持参する
- ⑧ 古着屋さん古本屋さん昔から大好き
- ⑨ 鳥羽リサイクルパークをフル活用している
- ⑩ 衣装ケースを使った生ゴミのたい肥化を実践している
- ⑪ 出張先ではなるべく歩く
- ⑫ エスカレーター・エレベーターは極力避ける
- ⑬ フリーマーケットに参加する

つたSDGsの17の目標にも何がしかつながっています。大企業や大学などが声高に叫んで啓発するのも大事ですが、小さくても一人ひとりが目標に向かって貢献していくことも、また大切なことだと思います。「一人の千歩より千人の一步」、いや「一人の千歩と千人の一步」ならもつと良いです。

鳥羽には大勢の観光客が訪れます。そのかたがたが、SDGsのことで鳥羽で気付いたことをそれぞれ持ち帰って広がっていく。鳥羽は大きな役目を果たすことができます。そしてすでに海に関わることで桃取の奈佐の浜の清掃活動に参加されたかたがたや、水産研究所で学んだ子どもたちがその役目を担ってくれています。

鳥羽にはほかにSDGsへのきっかけがたくさんあります。



イコール パートナシップ

Vol.143

鳥羽市初の 女性消防職員誕生

市民課人権・市民交流係 ☎ 1126

全国の消防本部における女性消防職員は、昭和44年に初めて採用されました。当時は、家庭の主婦や高齢者、子どもなどに対する防火・防災教育などの予防業務(毎日勤務)が主な活躍の場でした。以降、女性消防職員数は年々少しずつ増加し、担当業務についても、平成6年の女子労働規程規則(現・女性労働規程規則)の一部改正により、女性消防職員に係る深夜業の規制が解除され、指令管制、救急隊、消防隊などの交代制勤務も可能となり、活躍の場が広がりました。

消防職員全体に占める女性の割合は令和2年4月1日現在で、約3.0%と、まだまだ少ない状況ですが、住民サービスの向上などの観点から、今後、必要な存在となります。

女性職員が活躍するためには、職場環境の整備も必要になります。例えば、庁舎に女性用の更衣室などの施設が整備されていない場合、施設の改善が求められます。また、圧倒的に男性職員が多い組織では、無意識的に男性を中心とした考え方が定着している場合があるため、ハード面だけでなくソフト面での改革の推進にも取り組まなければなりません。

市では、令和3年4月1日付で、初めて女性消防職員が採用され、体力や腕力が必要な男性現場のイメージを払拭する大きな第一歩となりました。女性消防職員が誕生したことで、女性目線で見かめることができ、女性消防職員が誕生したことが期待されます。

女性職員の誕生をきっかけに、多様な視点でものごとを捉え直すことで、男女ともにいきいきと活躍できる場が増えていくことを願っています。